

# 120年を超える発展の歴史

T&D保険グループは、創業100年を超える太陽生命と大同生命が1999年1月に全面的な業務提携を発表し、発足しました。

2001年10月のT&Dフィナンシャル生命のグループ入りを経て、生命保険3社は家庭市場・中小企業市場・乗合代理店市場という3つの異なる市場でグループシナジーを創出し、成長を続けています。



## 太陽生命・大同生命 全面的業務提携

1999年1月に太陽生命と大同生命が全面的な業務提携を発表し、同年6月にグループ名称を「T&D保険グループ」に決定しました。

## T&Dフィナンシャル生命 T&D保険グループ入り

太陽生命・大同生命が共同でT&Dフィナンシャル生命(旧東京生命)の株式を取得、同社はT&D保険グループの一員として業務を開始しました。



## 太陽生命創業

太陽生命の前身である「名古屋生命」は、わが国に現存する生命保険会社の中では4番目に創業しました。

## 大同生命創業

大同生命は、当時「朝日生命」(現在の朝日生命とは別会社)を経営していた加島屋が主体となって、東京の「護国生命」、北海道の「北海生命」との合併により創業しました。



1893年

1902年

1999年

2001年

# Next Stage



左から、太陽生命社長・吉池正博、大同生命社長・宮戸直輝

## 株式会社T&D ホールディングス設立

2004年4月に日本で初めて生命保険事業を中核とする持株会社・株式会社T&Dホールディングスを設立し、東京証券取引所・大阪証券取引所(現 大阪取引所)に上場しました。



2002年

2004年

2007年

ペット&ファミリー少額短期保険を  
子会社化

グループの資産運用会社を  
T&Dアセットマネジメントに集約

## Try & Discover for the Next Stage

### 家庭市場向けビジネスの発展



ご家庭に  
「最優の生活保障」を  
お届けします。

### 中小企業市場向けビジネスの発展



中小企業と  
そこで働くすべての方を  
様々なリスクから  
お守りします。

### 乗合代理店市場向けビジネスの発展



乗合代理店市場  
におけるグループの  
プレゼンス拡大を  
目指します。

企業価値  
(EV<sup>※1</sup>)

2兆2,905億円<sup>※2</sup>

※1 EV(エンベディッド・バリュー):  
修正純資産と保有契約価値の合計。  
生命保険会社の企業価値、業績評価指標の一つ。  
※2 2017年3月末現在。

# 中核生命保険会社3社が担うビジネス

中核生命保険会社3社(太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命)は、それぞれが異なる「市場」、「チャネル」、「商品」を持ち、独自性・専門性の高いビジネスを展開しています。

家庭市場向け  
ビジネス

 太陽生命



死亡・医療・介護保障を中心とした総合生活保障などの商品を、営業職員が販売します。

中小企業市場向け  
ビジネス

 大同生命



定期保険(死亡保障)、就業不能保障などの商品を、営業職員や代理店(税理士など)が販売します。

乗合代理店市場向け  
ビジネス

 T&Dフィナンシャル生命



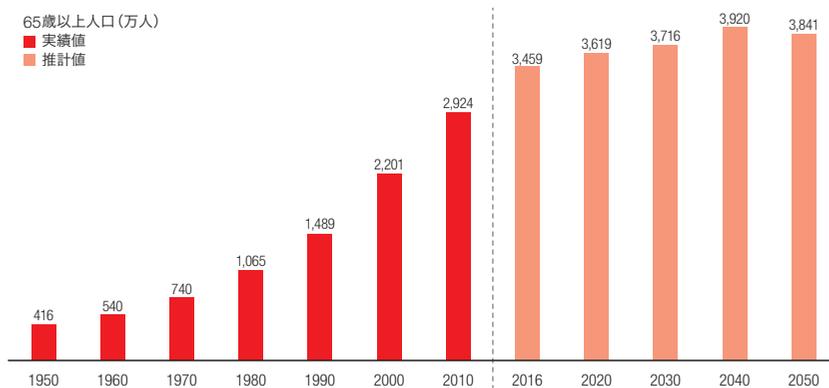
一時払保険(外貨参照型など)、収入保障保険などの商品を、乗合代理店(金融機関、来店型保険ショップ)が販売します。

# 家庭市場向け ビジネス



## Market

高齢化の推移と将来推計



出所：2010年までは総務省「国勢調査」、2016年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。

シニア層の人口増加  
保険ニーズの多様化

## Our Solution



時代の変化を先取りした「最優の商品・サービス」をご家庭にお届けし、シニアマーケットでのトップブランドを構築します。

- 営業職員が二人一組で個別にご家庭を訪問し、お客さまのニーズをおうかがいしたうえで、必要な保障を提供
- 「訪問による対面サービスの強化」「時代の変化を先取りした商品開発」「営業職員チャネルのさらなる充実」の三位一体となった販売を推進



# 中小企業市場向け ビジネス

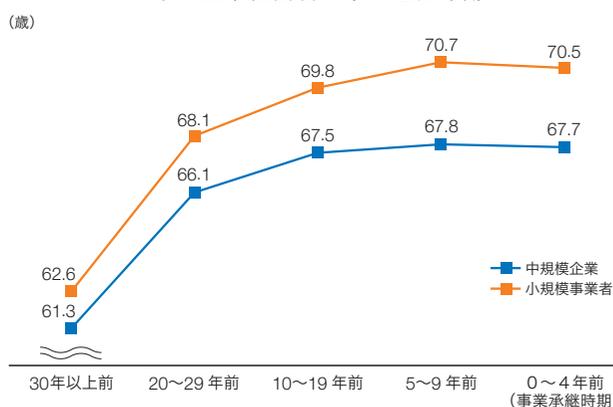


## Market

国内企業数  
約200万社

個人事業主数  
約200万人

中小企業経営者の平均退任年齢



出所：総務省統計局「平成26年経済センサス-基礎調査」。

出所：中小企業庁委託「中小企業の事業承継に関するアンケート調査」(2012年11月、(株)野村総合研究所)。

中小企業経営者の高齢化、  
在任期間の長期化

## Our Solution



中小企業のお客さまに「最高の安心」と  
「最大の満足」をお届けします。

- 中小企業を取り巻くさまざまなリスクや必要資金準備に対応した合理的な保障の提供
- 中小企業関連団体や税理士団体などの提携による強固な販売体制を構築

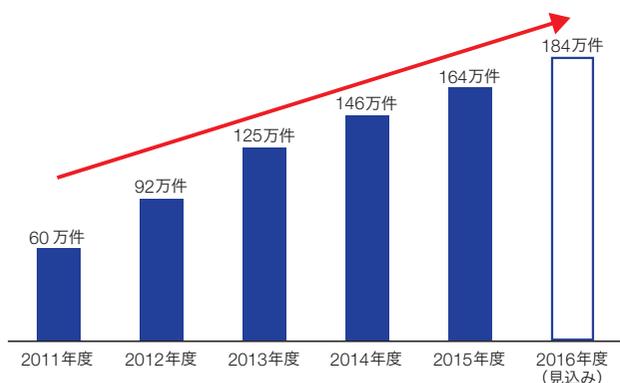


# 乗合代理店市場向け ビジネス



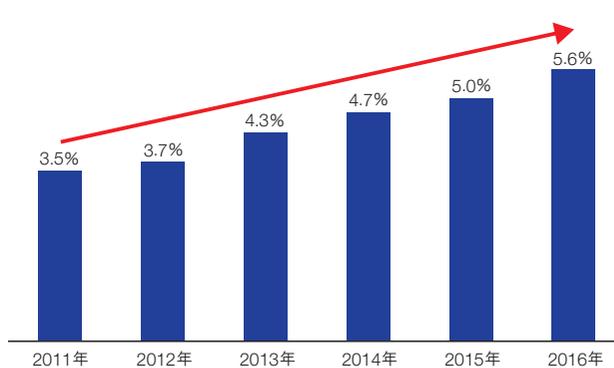
## Market

来店型保険ショップの新規契約数推移



出所：(株)矢野経済研究所 推計

最近5年以内に銀行を通じて生保に加入した割合



出所：(一社)全国銀行協会「銀行による保険窓販に関する消費者アンケート 調査結果 報告書 (2017年2月)」

## 乗合代理店市場の拡大 販売チャネルの多様化

## Our Solution



## T&Dフィナンシャル生命

お客さまの幅広いニーズにお応えする、  
特色ある商品をお届けします。

- 「給付内容を差別化した一時払資産形成型商品」および「価格面等で競争力のある平準払保障型商品」を提供
- 金融機関および来店型保険ショップの代理店販売網を拡大



# T&D保険グループの価値創造

T&D保険グループは、生命保険事業を通じて社会的課題の解決に貢献することにより、“すべてのステークホルダーの満足度”の増大を追求してまいります。

## T&D保険グループを取り巻く事業環境

### ■社会環境

- ・少子高齢化の進展、人口の減少
- ・年金・医療・介護における自助努力ニーズの高まり

### ■金融・経済環境

- ・低金利の継続と将来の金利上昇リスクの可能性の高まり

### ■業界・規制環境

- ・標準生命表の改定
- ・経済価値ベースの健全性指標導入の可能性

### ■技術革新

- ・医療技術の進歩、ビッグデータやFinTechなどIT技術の高度化

## 機会とリスク

### ■機会

- ・シニア層の人口増加
- ・生活保障ニーズの多様化

### ■リスク

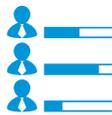
- ・環境が大きく変化する中で業界の競争が一層激化

## 重要な経営資源



### 財務資本

- ・強固な財務基盤



### 人的資本

- ・高度な専門性を有する多様な人材



### 知的資本

- ・保険の引き受けで蓄積された膨大な医療・健康データ



### 社会・関係資本

- ・日本全国に広がる支社・代理店ネットワーク
- ・関係先と長年にわたり築いた強固な信頼関係・協力基盤

## 保険引受

- ・お客さまの状況やニーズに合った最適で質の高い商品・サービスを提供

## 資産運用

- ・保険金等を確実に支払いするため、収益性・安全性・公共性に十分配慮して運用
- ・機関投資家としての社会的責任を果たし、投融資活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献

## T&D保険グループ

市場

太陽生命 (→P30)

家庭市場

大同生命 (→P34)

中小企業市場

T&Dフィナンシャル生命(→P41)

乗合代理店市場

アセットマネジメント事業等

T&Dアセットマネジメント株式会社 (→P42)

戦略的な経営管理

(→P44)

# T&D保険グループが 創出する価値

(→P17)

## の事業活動

チャンネル

商品

営業職員

死亡・医療・介護保障を  
中心とした総合生活保障

営業職員  
代理店(税理士 など)

定期保険(死亡保障)  
就業不能保障 など

P38)

乗合代理店  
(金融機関、来店型保険ショップ)

一時払保険(外貨参照型 など)  
収入保障保険 など

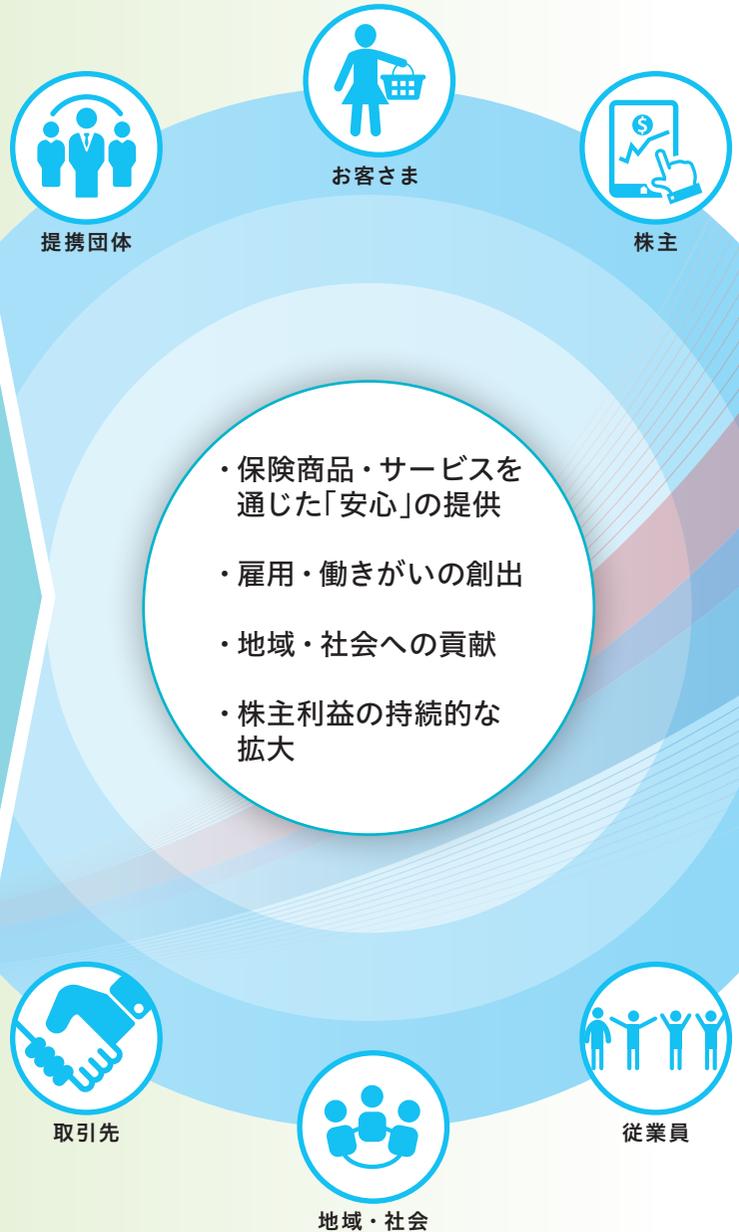
ペット保険事業

 **ペット&ファミリー**  
少額短期保険株式会社  
(→P43)

ほか、傘下グループ会社

強固なコーポレート・ガバナンス

(→P46)



# 主要パフォーマンス

3月31日に終了した会計年度

	2013	2014	2015	2016	2017 億円	% 前期比
<b>契約業績<sup>*1</sup></b>						
年換算保険料ベース						
新契約年換算保険料	¥ 1,642	¥ 1,279	¥ 1,613	¥ 1,326	¥ 1,370	3.3
うち第三分野等	156	165	208	246	286	16.5
保有契約年換算保険料	14,477	14,205	14,464	14,689	14,984	2.0
うち第三分野等	1,609	1,634	1,698	1,791	1,911	6.7
契約高ベース						
新契約高	¥ 71,589	¥ 66,398	¥ 72,272	¥ 66,859	¥ 74,414	11.3
保有契約高	599,965	606,998	621,177	629,981	646,128	2.6
<b>損益状況</b>						
経常収益	¥ 24,189	¥ 20,857	¥ 24,121	¥ 20,259	¥ 19,757	(2.5)
保険料等収入	19,409	16,097	19,580	15,745	15,052	(4.4)
基礎利益	1,824	2,102	1,827	1,530	1,599	4.5
経常利益	1,516	1,862	1,889	1,714	1,572	(8.3)
親会社株主に帰属する当期純利益	637	789	942	725	751	3.6
実質利益	780	924	942	833	917	10.1
<b>EV(エンベディッド・バリュー)<sup>*2</sup></b>						
EV	¥ 16,644	¥ 19,701	¥ 22,980	¥ 18,937	¥ 22,905	3,968増
新契約価値	616	891	930	563	1,195	631増
<b>株主還元</b>						
1株当たり配当金(円)	¥ 22.5	¥ 25.0	¥ 25.0	¥ 30.0	¥ 32.5	2.5増
自己株式の取得	約30	約100	約300	約190	約170	約20減
株主還元総額	約181	約268	約466	約384	約375	約9減
<b>健全性</b>						
連結ソルベンシー・マージン比率	943.8%	1,115.0%	1,220.7%	1,155.8%	1,105.1%	50.7pt減
ESR	150%	196%	217%	162%	175%	13pt増
<b>株価情報(会計年度末)</b>						
株価(円)	¥ 1,136.0	¥ 1,227.0	¥ 1,654.5	¥ 1,049.5	¥ 1,616.0	54.0
時価総額	7,741	8,361	11,275	7,152	11,012	54.0
<b>社会・環境データ</b>						
社員数(人) <sup>*3</sup>	19,455	18,806	18,319	18,409	18,543	
男性	3,991	3,852	3,702	3,622	3,564	
女性	15,464	14,954	14,617	14,787	14,979	
女性管理職比率 <sup>*3,4</sup>	11.1%	11.7%	13.0%	14.5%	14.9%	
障がい者雇用比率 <sup>*3</sup>	2.04%	2.15%	2.20%	2.27%	2.22%	
電力使用量(MWh = 1,000kWh)	106,440	99,302	95,866	96,348	97,705	
事務用紙使用量(t)	162	163	160	151	123	
グリーン購入比率	95.7%	95.4%	96.0%	95.9%	96.0%	

\*1 生保3社(太陽生命・大同生命・T&Dフィナンシャル生命)の個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプ、Tタイプおよび介護リリーの合計です。また、新契約高には、転換による純増加を含みます。

\*2 MCEV(Group MCEV)のデータです。

\*3 生保3社合計のデータです。

\*4 会計年度末の翌月4月1日現在のデータです。

# 2017年3月期マネジメントレビュー

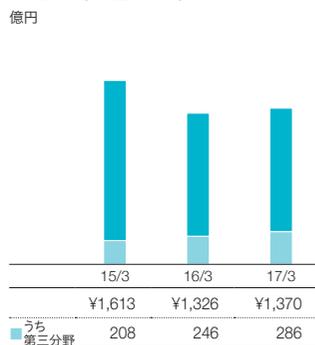
## 契約業績

### 年換算保険料

2017年3月期の生保3社合計の新契約年換算保険料は、前期から3.3%増加し、1,370億円となりました。このうち、第三分野の新契約年換算保険料は、前期から16.5%と大きく増加し286億円となりました。これにより、保有契約年換算保険料は1兆4,984億円(うち第三分野は1,911億円)となり、前期末から2.0%増加(同6.7%増加)しました。

なお、太陽生命では、主に貯蓄系商品を除く保障部分の新契約年換算保険料である保障新契約年換算保険料を重視しています。保障新契約年換算保険料は、選択緩和型商品の販売好調により、170億円と前期から10.1%増加しました。これにより保障保有契約年換算保険料は1,527億円となりました。

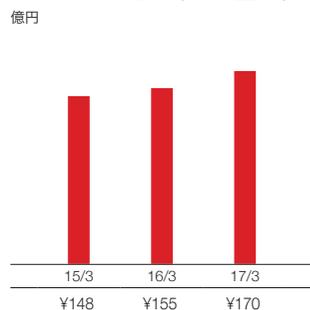
#### ◆ 新契約年換算保険料の推移(3社合算)



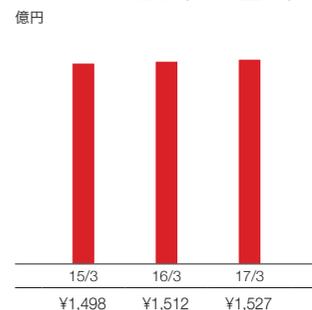
#### ◆ 保有契約年換算保険料の推移(3社合算)



#### ◆ 保障新契約年換算保険料の推移(太陽生命)



#### ◆ 保障保有契約年換算保険料の推移(太陽生命)



### 新契約高・保有契約高\*

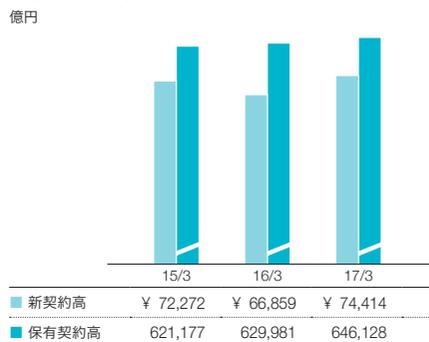
新契約高は前期から11.3%増加し7兆4,414億円、保有契約高は前期末から2.6%増加し64兆6,128億円となりました。

大同生命の新契約高は、主力商品である定期保険、就業不能保障商品(Jタイプ(無配当重大疾病保障保険)・Tタイプ(無配当就業障がい保障保険))が牽引し、5兆1,211億円と前期から18.7%増加しました。解約失効率は前期から0.04ポイント改善し、6.44%となりました。

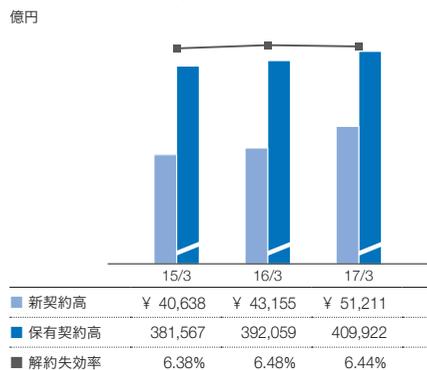
この結果、保有契約高は前期末から4.6%増加し、過去最高の40兆9,922億円となりました。

またT&Dフィナンシャル生命の新契約高は、低金利環境下における円貨建一時払終身保険の販売停止などにより、2,354億円と前期から0.3%減少しました。解約失効率は前期から0.29ポイント改善し、3.12%となりました。この結果、保有契約高は前期末から3.9%増加し、1兆8,793億円となりました。

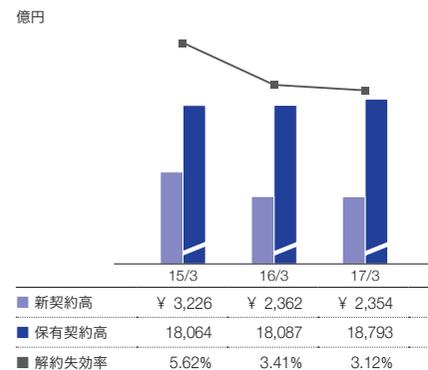
#### ◆ 新契約高・保有契約高の推移(3社合算)



#### ◆ 新契約高・保有契約高・解約失効率の推移(大同生命)



#### ◆ 新契約高・保有契約高・解約失効率の推移(T&Dフィナンシャル生命)



\* 個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプ、Tタイプおよび介護リリーの合計です。また、新契約高には、転換による純増加を含みます。

2017年3月期マネジメントレビュー

損益状況

経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益(連結)

経常利益は、主に金融派生商品費用の増加により前期から142億円減少し、1,572億円となりました。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、主に税効果の影響などで法人税等合計が減少したことにより、前期から26億円増加し、751億円となりました。

基礎利益

生保3社の基礎利益は、前期から68億円増加し、1,599億円となりました。太陽生命は前期より3億円減少し534億円、大同生命は8億円増加し1,056億円と、いずれも利息および配当金等収入の減少が主な減少要因となる一方で、退職給付引当金繰入額の減少などが増加要因となり、前期並みとなりました。

T&Dフィナンシャル生命の基礎利益は、国内金利上昇に伴う積立利率型終身保険の責任準備金戻入額の増加などにより前期から63億円増加し、8億円とプラスに転じました。

なお、3社合算の順ざや額は、前期より103億円減少し、298億円となりました。

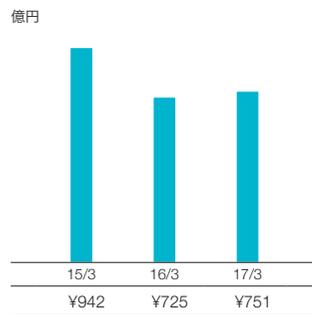
2018年3月期業績予想

主に利息および配当金等収入の減少などを見込むことなどから、経常利益は4.6%減益の1,500億円、親会社株主に帰属する当期純利益は1.6%減少の740億円と予想しています。なお株主還元対象利益である実質利益は、価格変動準備金の法定基準以上の繰入が減少することにより、13.9%減少の790億円を予想しています。

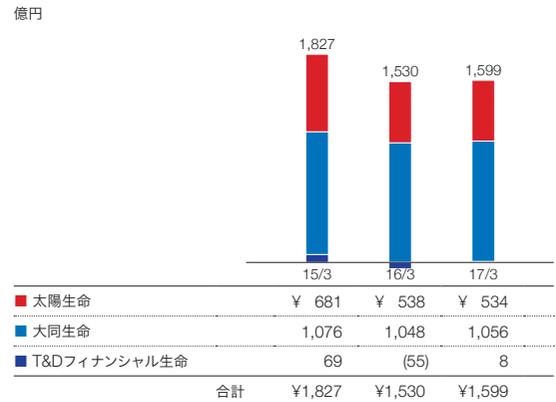
◆ 経常利益



◆ 親会社株主に帰属する当期純利益



◆ 基礎利益



◆ 2018年3月期通期業績予想(連結)

	2018年3月期 通期予想	2017年3月期 (実績)	増減率	2016年3月期 (参考)
経常収益	¥19,000	¥19,757	▲3.8%	¥20,259
経常利益	1,500	1,572	▲4.6%	1,714
当期純利益*	740	751	▲1.6%	725
〈参考〉実質利益	790	917	▲13.9%	833

※ 親会社株主に帰属する当期純利益。

◆ 2018年3月期通期業績見通し(生保3社)

	太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	2018年 3月期 (見通し)	2017年 3月期 (実績)	2018年 3月期 (見通し)	2017年 3月期 (実績)	2018年 3月期 (見通し)	2017年 3月期 (実績)
経常収益	¥7,700	¥8,979	¥9,700	¥9,444	¥2,200	¥1,558
経常利益	620	666	860	826	10	61
当期純利益	290	289	440	431	0	21
契約業績指標	保障性年換算保険料 <sup>※1</sup>		契約高 <sup>※2</sup>		契約高 <sup>※2</sup>	
新契約業績	160	170	43,500	51,211	3,700	2,354
保有契約業績	1,540	1,527	417,800	409,922	20,600	18,793
保険料等収入	5,000	6,543	8,000	7,663	2,000	809
基礎利益	530	534	950	1,056	▲20	8
順ざや額	80	77	250	250	▲20	▲29

※1 太陽生命の経営指標で、年換算保険料のうち主に貯蓄系商品を除いた保障部分の合計。

※2 新契約高および保有契約高は、個人保険・個人年金保険。また、新契約高には、転換による純増加を含みます。

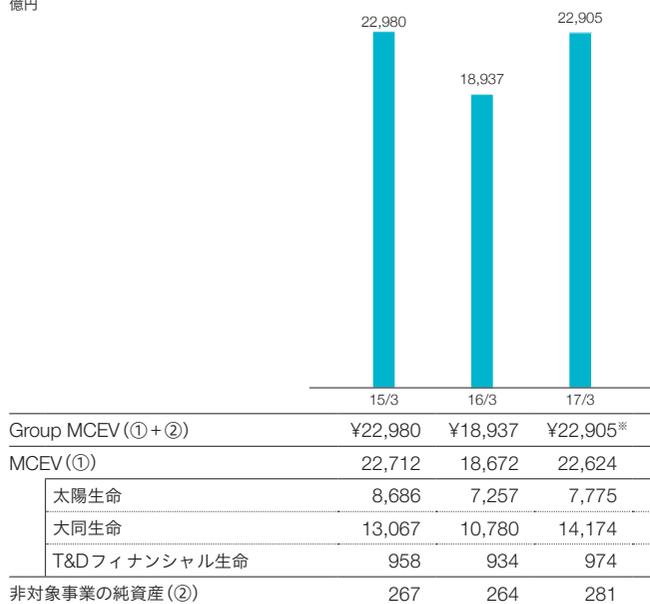
なお、大同生命の新契約高および保有契約高は、Jタイプ、Tタイプおよび介護リーフを含む広義ベースとしています。

## EV(エンベディッド・バリュー)

2017年3月末のGroup MCEVは、新契約の獲得、保険前提の改善、国内金利上昇などにより、前期末から3,968億円増加し、2兆2,905億円となりました。また、新契約価値は、好調な新契約業績に加え、保険前提の改善、国内金利上昇などにより、前期から631億円増加し、1,195億円となりました。

### ◆ Group MCEV

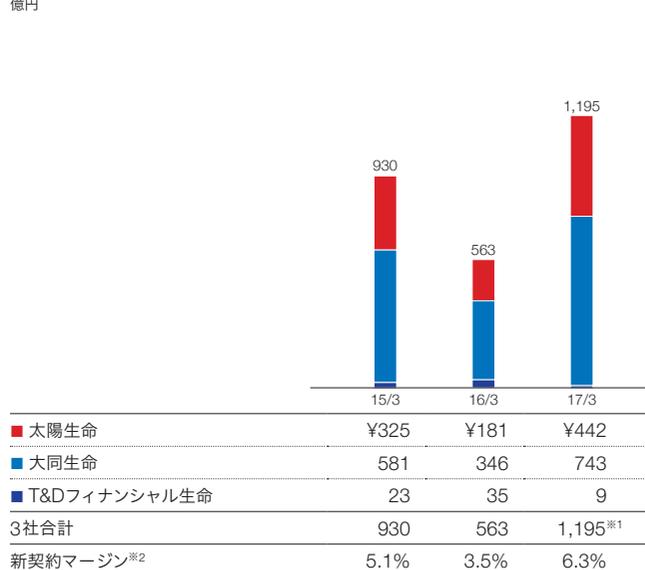
億円



※ 終局金利を適用したGroup MCEV (2017年3月末)は、約2.41兆円。

### ◆ 新契約価値

億円



※1 終局金利を適用した新契約価値 (2017年3月末)は、約1,429億円。

※2 新契約マージンは新契約価値÷収入保険料現価。

## 株主還元

2017年3月期は、1株当たり配当金を2円50銭増配の32円50銭とし、加えて自己株式の取得を約170億円(約10.6百万株)実施し、総額約375億円の株主還元を実施しました。

なお、2017年3月期から株主に対する利益還元機会を増やすために、中間配当を実施しました。

2018年3月期の1株当たり配当金予想は、年間配当35円(うち中間配当17円50銭)としました。

### ◆ 株主還元と実質利益の推移

	15/3	16/3	17/3
株主還元総額(億円)	約466	約384	約375
配当総額(億円)	166	194	205
1株当たり配当金(円)	25.0	30.0	32.5
自己株式の取得(億円)	約300 <sup>※1</sup>	約190 <sup>※2</sup>	約170 <sup>※3</sup>
実質利益(億円)	942	833	917
親会社株主に帰属する当期純利益(億円)	942	725	751
負債性内部留保の超過繰入額(税引後)(億円)	—	108	165

※1 2015年3月期決算に係る株主還元として、2015年5月～7月に実施。

※2 2016年3月期決算に係る株主還元として、2016年5月～7月(約140億円)および2017年2月～3月(約50億円)に実施。

※3 2017年3月期決算に係る株主還元として、2017年5月～6月に実施。

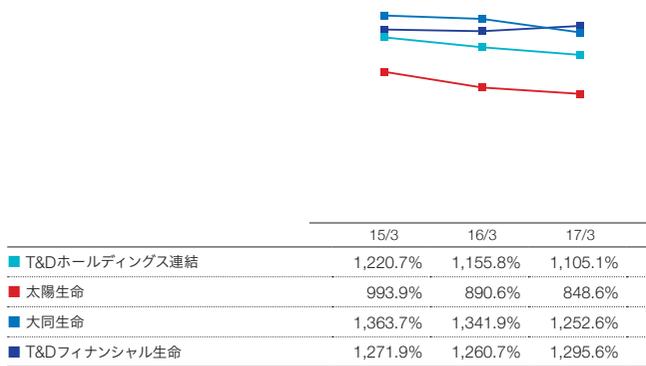
2017年3月期マネジメントレビュー

健全性

ソルベンシー・マージン比率

2017年3月期のソルベンシー・マージン比率は、T&Dホールディングス連結で1,105.1%、太陽生命で848.6%、大同生命で1,252.6%、T&Dフィナンシャル生命で1,295.6%と十分な健全性を有しています。

◆ ソルベンシー・マージン比率

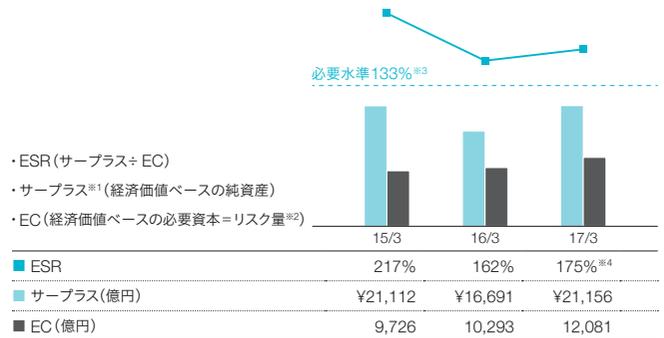


ESR

経済価値ベースの資本十分性を表すESR(エコノミック・ソルベンシー・レシオ)は、前期末から13ポイント増加し、175%となりました。

主に国内金利の上昇などにより資産運用リスク量が増加した一方、新契約の獲得や保険前提の改善、国内金利の上昇により、経済価値ベースの純資産であるサープラスが増加したことによります。

◆ ESR



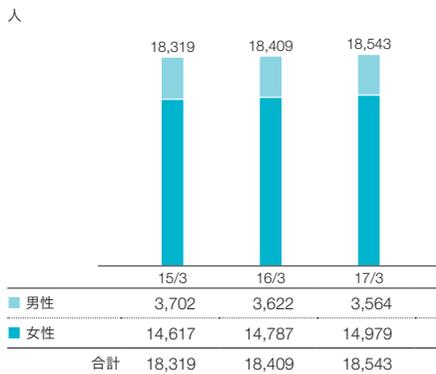
- ・ ESR(サープラス÷ EC)
- ・ サープラス<sup>※1</sup>(経済価値ベースの純資産)
- ・ EC(経済価値ベースの必要資本=リスク量<sup>※2</sup>)

- ※1 経済価値ベースで評価した資産と負債の差額。資産・負債評価は基本的にMCEVと同様の前提を用いて算出。なお、リスクマージンに用いる資本コスト率は2017年3月末よりIAIS(保険監督者国際機構)が検討を進めている保険資本基準(ICS)を参考に5%を適用(2016年3月末以前は6%を適用)。
- ※2 内部モデル(計測期間1年、VaR99.5%)で算出した経済価値ベースのリスク量(分散効果考慮後)。MCEVの必要資本も同一の内部モデルで評価。
- ※3 現在のリスクプロファイルを前提として、信頼水準99.93%のリスク量をカバーする水準。
- ※4 終局金利を適用したESR(2017年3月末)は、約192%。

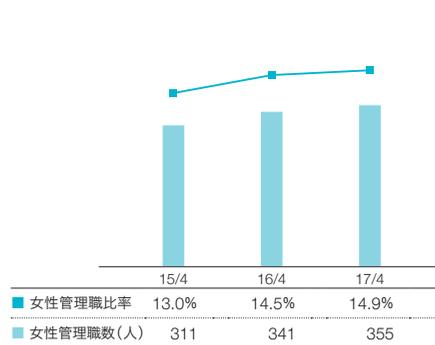
社会・環境データ

T&D保険グループは、「多様な人材が働きがいを感じながら能力を発揮できる企業風土づくり」を推進しています。

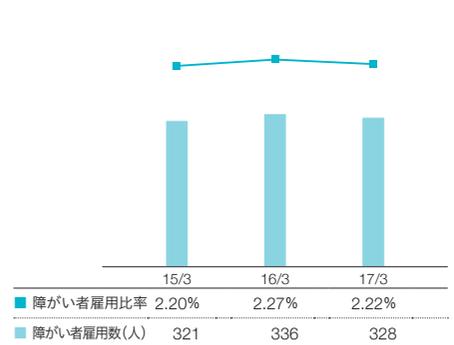
◆ 社員数<sup>※1</sup>



◆ 女性管理職比率/数<sup>※1,2</sup>



◆ 障がい者雇用比率/数<sup>※1</sup>

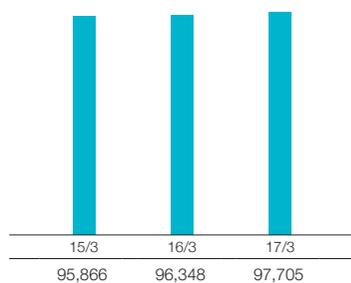


※1 生保3社合計のデータです。  
 ※2 会計年度末の翌月4月1日現在のデータです。

T&D保険グループは、グループ各社が協力し、グループとしての環境保護関連の目標を設定して、毎日の事業活動の中でその達成に向けた取組みを進めています。

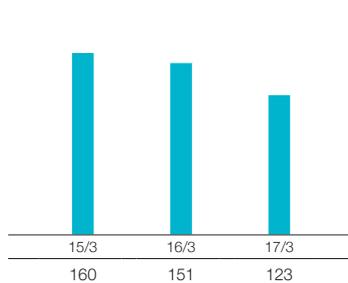
#### ◆ 電力使用量

MWh = 1,000kWh

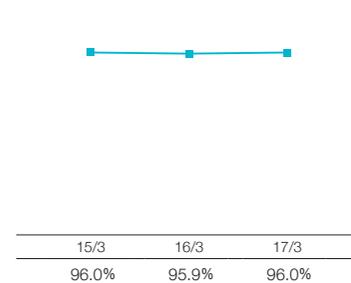


#### ◆ 事務用紙使用量

t



#### ◆ グリーン購入比率



## SRIインデックスへの組み入れ

T&Dホールディングスは、SRI (社会的責任投資)インデックスの構成銘柄に採用されています。社会的責任投資とは、財務的な観点だけでなく、環境や社会への活動など、CSRの観点を加味した評価により、投資先企業を選定する投資手法です。

### ◆ T&Dホールディングスが組み入れられているSRIインデックス(2017年8月1日現在)

FTSE4Good Index Series



英国のFTSE Russell社が開発したインデックスで、世界中の優良企業を選定した社会的責任投資指標

MSCI ESG Leaders Indexes



米国のMSCI社が開発したインデックスで、特にESG(環境・社会・ガバナンス)に優れた企業を選定したもの

FTSE Blossom Japan



英国のFTSE Russell社が開発したインデックスで、ESG(環境・社会・ガバナンス)要因への対応力が優れた日本企業を選定したもの

MSCI ジャパンESG セレクト・リーダーズ指数



MSCIジャパンIMIトップ500指数(時価総額上位500銘柄)構成銘柄の中から、ESG評価に優れた企業を選別して構築される指数

モーニングスター社会的責任投資株価指数



モーニングスター株式会社が国内上場企業の中から社会性に優れた企業と評価する150社を選定し、その株価を指数化した国内初の社会的責任投資株価指数

MSCI 日本株女性活躍指数(WIN)



MSCIジャパンIMIトップ500指数(時価総額上位500銘柄)構成銘柄の中から、女性の活躍推進に優れた企業を選別して構築される指数

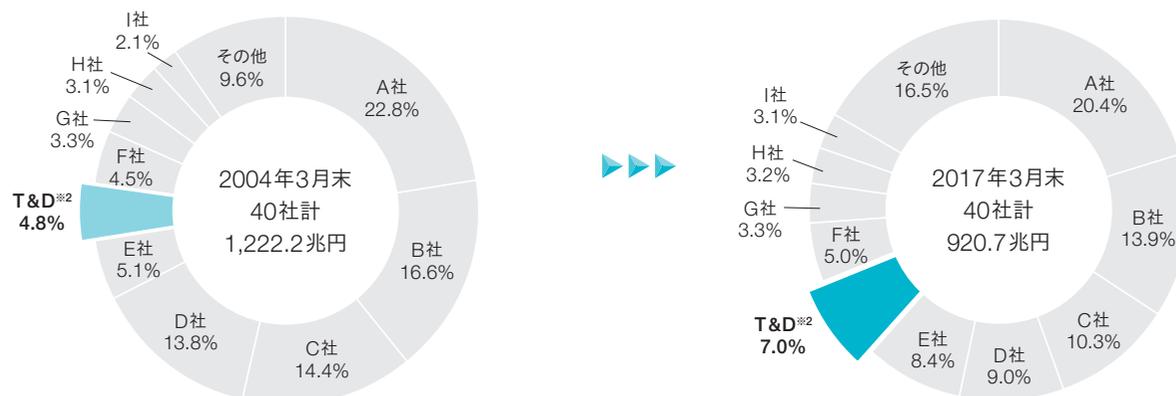
MSCI ESG Research logo disclaimer:

THE INCLUSION OF T&D Holdings, IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HERIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF T&D Holdings, Inc. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

# T&D保険グループのポジション

## 市場シェアの変化

2017年3月末におけるT&D保険グループの市場シェア(保有契約高※1ベース)は7.0%となり、T&Dホールディングス設立(2004年4月)前の太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命を合算した2004年3月末のシェアから着実に拡大しています。



出所：生命保険協会「生命保険事業概況」、各社決算資料より当社作成。

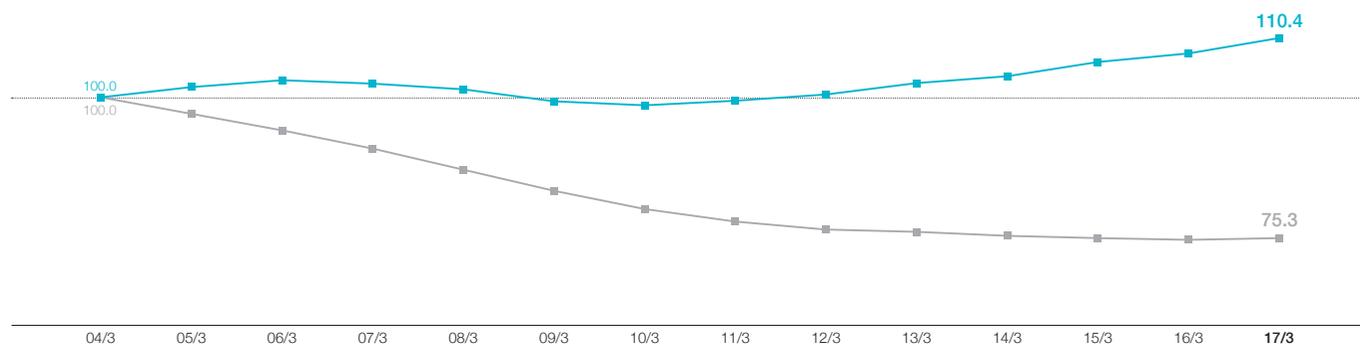
※1 保有契約高は個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプ、Tタイプおよび介護リリーの合計。  
かんぽ生命は含んでいません。

※2 太陽生命・大同生命・T&Dフィナンシャル生命の3社合算。

## 保有契約高※1の推移

2004年3月末を100とした場合の業績推移

2004年3月末を100とし、太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命3社の保有契約高の合算値と、生命保険業界全体の保有契約高の推移をそれぞれ比較したものです。特化マーケットに応じた最適なチャネルを通じて、最適な商品・サービスを一体的に提供する独自の事業モデルにより、中核生保3社がいずれも競争優位性を維持しており、契約業績は堅調に推移しています。



■ T&D ■ 生保全社(除かんぽ)+JT介護

出所：生命保険協会「生命保険事業概況」、各社決算資料より当社作成。

※1 保有契約高は、個人保険・個人年金保険および大同生命のJタイプ、Tタイプおよび介護リリーの合計。  
かんぽ生命は含んでいません。